

貯 法：室温・遮光保存
使用期限：外箱に表示の使用期限内
に使用すること

日本薬局方

承認番号	21300AMZ00633
薬価収載	1959年10月
販売開始	1959年10月
再評価結果	1976年10月

^{*}dl-メチルエフェドリン塩酸塩散10%

10% dl-Methylephedrine Hydrochloride Powder

メチルエフェドリン散10%「フソー」



【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

カテコールアミン製剤（アドレナリン、イソプロテレノール等）を投与中の患者（「相互作用」の項参照）

【組成・性状】

※1. 組成

販売名	メチルエフェドリン散10%「フソー」
有効成分	1g中 日局 dl-メチルエフェドリン塩酸塩 100mg
添加剤	乳糖水和物

2. 製剤の性状

販売名	メチルエフェドリン散10%「フソー」
剤形	散剤
性状	白色の散剤

【効能・効果】

◇下記疾患に伴う咳嗽

気管支喘息，感冒，急性気管支炎，慢性気管支炎，肺結核，
上気道炎（咽喉頭炎，鼻カタル）

◇蕁麻疹，湿疹

【用法・用量】

メチルエフェドリン塩酸塩として通常成人1回25～50mg（本剤0.25～0.5g）を1日3回経口投与する。

なお，年齢，症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

- (1)甲状腺機能亢進症の患者 [交感神経刺激作用により甲状腺機能亢進症を悪化させるおそれがある。]
- (2)高血圧症の患者 [交感神経刺激作用により高血圧症状を悪化させるおそれがある。]
- (3)心疾患のある患者 [交感神経刺激作用により心拍数が増加し，心臓に過負荷をかけることがあるため，症状を悪化させるおそれがある。]
- (4)糖尿病の患者 [交感神経刺激作用により糖代謝を促進し，血中グルコースを増加させるおそれがある。]

2. 重要な基本的注意

- (1)用法・用量どおり正しく使用しても効果が認められない場合は，本剤が適当でないと考えられるので，投与を中止すること。なお，小児に投与する場合には，使用法を正しく指導し，経過の観察を十分に行うこと。
- (2)過度に使用を続けた場合，不整脈，場合によっては心停止を起こすおそれがあるので，使用が過度にならないように注意すること。

3. 相互作用

(1)併用禁忌（併用しないこと）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
カテコールアミン製剤 アドレナリン イソプロテレノール等	不整脈，場合によっては心停止を起こすおそれがあるので併用を避けること。	相加的に作用（交感神経刺激作用）を増強させる。

(2)併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
MAO阻害剤 甲状腺製剤 チロキシ リオチロン等	作用が増強されるおそれがあるので，減量するなど慎重に投与すること。	
キサンチン誘導体 テオフィリン	血清カリウム値が低下するおそれがある。併用する場合には定期的に血清カリウム値を観察し，用量について注意すること。	相加的に作用（血清カリウム値の低下作用）を増強する。 β_2 刺激剤はcAMPを活性化しNa-Kポンプを刺激する。
ステロイド剤 プレドニゾン		
利尿剤 アミノフィリン水和物		

4. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(1)重大な副作用

β_2 刺激剤により重篤な血清カリウム値の低下が報告されている¹⁾。また， β_2 刺激剤による血清カリウム値の低下作用は，キサンチン誘導体，ステロイド剤及び利尿剤の併用により増強することがあるので，重症喘息患者では特に注意すること。特に，低酸素血症においては，血清カリウム値の低下がリズムに及ぼす作用を増強することがある。このような場合には定期的に血清カリウム値を観察することが望ましい。

(2)その他の副作用

副作用が認められた場合には，投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

	頻度不明
循環器	心悸亢進，顔面蒼白等
精神神経系	熱感，頭痛，不眠，めまい，眠気，神経過敏，疲労等
消化器	悪心，食欲不振，腹部膨満感等
過敏症	発疹等
その他	口渇

5. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

6. 妊婦，産婦，授乳婦等への投与

- (1)妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には，治療上の有益性が危険性を上まわると判断される場合にのみ投与すること。[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。]
- (2)授乳中の婦人には投与しないことが望ましいが，やむを得ず投与する場合には授乳を避けさせること。[授乳中の投与に関する安全性は確立していない。]

7. 小児等への投与

小児等に対する安全性は確立していない(使用経験が少ない)。

※※【薬効薬理】

◇気管支拡張作用²⁾

メチルエフェドリンは α 及び β 受容体を刺激するが，作用の一部は交感神経終末からのノルアドレナリン遊離を介する間接的なものである。臨床的には β_2 受容体刺激による気管支拡張作用が利用される。

◇鎮咳作用³⁾

亜硫酸ガス吸入によるモルモット実験咳に対する鎮咳作用(ED₅₀)は皮下投与24mg/kgで，エフェドリンの0.7倍，コデインの0.6倍である。また，機械的刺激に対しては腹腔内投与35.2mg/kgで，コデインの0.4倍である。

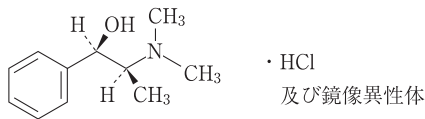
◇抗ヒスタミン作用⁴⁾

モルモット摘出腸管のヒスタミン収縮に対し，エフェドリンの2～3倍強い抗ヒスタミン作用を示す。

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：dl-メチルエフェドリン塩酸塩 (dl-Methylephedrine Hydrochloride)

構造式：



分子式：C₁₁H₁₇NO・HCl

分子量：215.72

化学名：(1*R,S*, 2*S,R*)-2-Dimethylamino-1-phenylpropan-1-ol monohydrochloride

性状：無色の結晶又は白色の結晶性の粉末である。水に溶けやすく，エタノール(99.5)にやや溶けにくく，酢酸(100)に溶けにくく，無水酢酸にほとんど溶けない。水溶液(1→20)は旋光性を示さない。

※※【包装】

メチルエフェドリン散10%「フソー」 500g

【主要文献及び文献請求先】

- 1)Haalboom, J. R. E., et al.:Lancet. 1985;1:1125-1127
- ※※2)第十七改正日本薬局方解説書. 2016:C-5390-5394
- ※※3)高木敬次郎 ほか:薬学雑誌. 1961;81:261-265
- 4)待井精一:日本薬理学雑誌. 1957;53:638-659
- ※【文献請求先】扶桑薬品工業株式会社 研究開発センター 学術部門
〒536-8523 大阪市城東区森之宮二丁目3番30号
TEL 06-6964-2763 FAX 06-6964-2706
(9:00～17:30/土日祝日を除く)

製造販売元



扶桑薬品工業株式会社

大阪市城東区森之宮二丁目3番11号